

第1期 出題趣旨

小論文1

本文では、これまで教育は人の能力を向上させることを主眼としてきたが、人の能力をうわまわるAIの登場により、社会のあり方が大きく変貌することは避けられないが、そのような時代、教育はこれまで同様の、能力の向上を重視するものであってよいのかという問題を、前提とする人間観にまで立ち戻って考えて見る必要があるのではないかという問題が提起されている。これを参考に、引用されている出口教授の問題提起を正しく理解したうえで、自説を適切に展開できているか、また、これまでの教育がそのように批判されるような内容であったのかについて、反批判、弁明させることにより、柔軟な考え方ができるかを確認しようとするものである。

小論文2

時間帯や曜日によって鉄道運賃が変わる「ダイナミックプライシング」について解説する課題文を素材に、その制度のメリットと注意点、他の混雑解消策、変動運賃制の導入にあたっての課題文の提言とそれに対する解答者の見解を問う問題である。

課題文の内容とその提言についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文に対する解答者の意見の内容やその表現力を評価の対象とする出題である。

第2期 出題趣旨

小論文1

環境問題を生態系という観点から捉えてもらおうというのが狙いである。理科教育の重要性が説かれているが、それは後景にとどまる。環境基本法3条は同法の基本理念を示す規定であるが、法律の条文らしからぬ特異な内容が盛られている。これを十分に読み込んでほしい。

問1は、2020年7月スタートしたレジ袋有料化の趣旨を考えてもらう問題である。この制度の趣旨は、資源の節約、廃棄物の削減、有害な化学物質の発生抑制、二酸化炭素の排出抑制、海洋プラスチック問題への対応（海浜・海域に流れ込むプラスチックごみを少しでも減らす）など、いろいろな角度から説明できる。このうち資源の節約と廃棄物の削減はすぐに念頭に浮かぶと思う。その際、環境基本法3条の規定をしっかりと読んで、そこから何か学ぶことがないか考えてほしい。

問2では、小さな魚を大きな魚が食べ、その大きな魚を鳥が食べるという食物連鎖の關係に思い至ることを期待している。魚はマイクロプラスチックを消化できないため、それを口に入れた魚が死に追いやられることがある。その魚は生存できても、それを食べた他

の海洋生物が死ぬかもしれない。回り回って人間の身体にマイクロプラスチックが入り込み、死に至らしめることもあるという。

小論文2

個人情報保護が求められる近時の傾向の中で、東京オリンピック・パラリンピックを控えたスポーツ界においても、アスリートの身長・体重の非公開化を巡る問題が生じた。ただ、これに対しては、報道においてスポーツの魅力を伝えるための必要性という相反する利益もあり、それとの調和も問題となる。

このような問題をめぐる論述を的確に理解、分析し、それに対する自己の考えも表明することは、法律を学び、事件を解決していく上で役立つ思考方式である。この設問でも、文章の理解力、文章力に加えて、自ら具体例を挙げるなどして、説得的な論述を示してほしい。

第3期 出題趣旨

小論文1

コロナ禍を機に国内での移住を考える人が出てきているようである。われわれは憲法によって居住、移転の自由を保障されているが、実際に希望通り新しい土地で生活できるとは限らない。都市型の社会と伝統的な地域社会の違いに気づいてもらうのが出題の趣旨である。

問1では、長い間都市生活を続けた著者が田舎に戻ってうまく暮らしていけるかどうか考えてほしい。都市では人間同士の結び付きが弱いので、人を孤独にする面があるが、人付き合いの煩わしさはない。他方、田舎では近所付き合いを求められる。著者は、少し離れた街であれば、都会的な生活を継続しながらふるさとを眺めていられると考えているのであろう。著者の生家とその街とは、交通の便がよくなった今日ではそれほどの距離ではないと推測されるが、著者の記憶の中には「遠いところ」という印象が残っている。そのことに何か意味を見出す人がいるかもしれない。

問2では、人と人のつながりが極めて強い社会と新参者の関係を考えてもらう。そのような社会では、独特の社会規範が形成されていることが予想され、新参者にとっては、実際上、それを受け容れられるかどうかの参入の前提になると考えられる。当地の出身者がUターンした場合は、一見すると地元民の帰参であるが、実際には一旦当地を捨てた者の出戻りと見られる可能性がある。いずれにせよ、排除された者を救済するための法制度は用意されているものの、それが機能したところで落ち着いた生活が得られるという保障はない。そこに問題がある。

小論文2

コロナ禍で懸念される複合災害を防ぐための「分散避難」について解説する課題文を素材に、複合災害とは何か、それはどのようにして起こるのか、複合災害を防ぐためにはどのような対策が必要となるのか、その対策にはどのような問題があるのか、その問題を解決するための対処法は何かを問う問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する自分の意見の内容や表現力を評価の対象とする出題である。

第4期 出題趣旨

小論文1

裁量という語は法律学には頻繁に登場するが、日常生活でもそれなりに使われる。本題は、日常生活における使い方から出発して裁量という御の意味を考えることを狙いとしている。

問1では、この教員の所属先における平常点の付け方のどこにどのような裁量が認められるかを考えてもらう。平常点の点数に10点から30点という幅があり、そこでの選択の余地を裁量と称することができる。レポートと授業中の態度の評価割合についても選択の余地があり、それも同様に裁量と見ることができる。各科目について担当教員の裁量が認められることになるが、受講者との関係では一種のルールを設けていることになるので、一旦決めた以上、特定の学生について異なる扱いをすることは、通常は許されないと考えられる。

問2では、レポートの提出の締め切りに遅れた学生がいた場合に、その学生をどう取り扱うかという個別的な決定の局面が問題になっている。「担当教員が自分の責任（意見）で」決めてよいのであるから、広辞苑の意味をそのまま採用すれば、当該教員の裁量と表現できる。ただし、この教員は、レポートの締め切りを（提出時刻まで明記して）決めていたようであるから、その締め切りはルールである。他の学生との平等取扱いの要請や今後の円滑な制度運営のことを考えると、たとえ30分程度の遅れであっても、軽々に例外を認めることはできない。教員としては、例外扱いをするのであれば、特殊事情があるかどうか十分に調査して、それなりの正当化を用意しておく必要があるだろう。

小論文2

わが国の多くの地域で、過疎化に伴い、路線バスなどの公共交通の運営は極めて厳しい状態に陥っている。このような現状に対して、様々な方式を用いた対策が検討されている。本問は、現状の問題点を正しく把握できているか、それに対する一つの施策に対するA教

授の意見を理解できているか、その上で自己の意見を論述できているかを問うものである。分析の深さや文章の論理性のほか、このような難問を何とか解決しようという積極的な姿勢を文章で展開してほしい。

第5期 出題趣旨

小論文1

論説は、第二次大戦に巻き込まれていったドイツの歴史と当時の若者の行動を踏まえて、戦争は悪人により遂行されたものと簡単に片付けることのできない問題を提示しており、やさしい平凡な人が加担していたという事実について深く考えさせる内容をもっており、それが考えるべき今日的なテーマであり続けていることに注意を喚起している。

文章全体の趣旨を理解したうえで著者の考え方を正しく理解し、引用されている作品を適切に引用しながら、自らが考えるところを論述できているか、また、「雪玉」という比喩的表現で何を主張しようとしていたかを文章全体の趣旨に照らして正しく説明できているかを見ている。

小論文2

文化庁の文化審議会がまとめた「博物館登録制度」についての答申を解説する課題文を素材に、現在の博物館登録制度の内容と問題点、博物館登録制度についての答申の内容、その答申に対する課題文の提言を問う問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する自分の意見の内容や表現力を評価の対象とする出題である。